

山口

10月6、12、13、16、27日、山口県内8市の大型店や商店街、フリーマーケット、福祉まつりの会場などで会員、家族、看護学校の学生・教師延べ60人が参加して意思表示カード入りポケットティッシュ2,700個と風船400個を配布しました。11月に加え、今年3月にも残り1,300個を配布する予定です。また、10月16日前後には、県内9か所でグリーンリボンライトアップが実施されました。県内の各市町村に要望したところ、ほぼ全ての行政広報紙にライトアップの予告が掲載されました。そのほかにも、防府市では移植部サポーターと県の移植コーディネーターが地域FMのラジオ放送に出演しました。



愛媛

10月13日、今治市合併20周年記念事業「せとうちみなとマルシェ」の会場にて、愛媛県主催の臓器移植キャンペーンを実施しました。11時からの開催に先立ち、約1時間にわたって国会請願署名活動を行い、多くの方にご協力いただきました。愛媛県腎臓病患者連絡協議会からは10人、移植者の会、県職員を含む20人ほどが参加し、キャンペーンがスタートしました。イベントには多くの来場者が訪れ、用意した1,200部のリーフレットはあっという間に配布し終えました。



大阪

10月26日、「すみよし区民まつり」会場で臓器移植キャンペーンが行われました。当日のキャンペーンには大阪腎臓病患者協議会から3人が参加し、大阪府と大阪市の担当者や大阪腎臓バンク、日本移植者協議会などの関連団体とともに配布物3,000部を来場者に手渡しました。また、グリーンリボンデーの10月16日には、万博記念公園の太陽の塔、天保山大観覧車、大阪城天守閣などが移植医療のシンボルカラーであるグリーンにライトアップされました。太陽の塔前での点灯式には会員4人が参加しました。



臓器移植普及推進キャンペーン

厚生労働省は毎年10月を臓器移植普及推進月間と定めています。新型コロナウイルス感染症の5類へ移行後も変異株の流行など予断を許さない状況のなか、各地で感染症に配慮しながら昨年秋に全国各地で移植啓発活動に取り組みました。

北海道

10月2日、北海道腎臓病患者連絡協議会では、札幌駅前地下歩行空間にて北海道移植医療推進財団と協働し、臓器提供意思表示の呼びかけを動画で行うなど、臓器提供意思表示啓発活動を実施しました。この活動の様子は、STV札幌テレビ放送のお昼のニュースで紹介されました。今年も引き続き実施する予定です。室蘭地方腎友会では、9月15日「障害者ふれあい祭り」、釧路地方腎友会では10月20日「健康まつり」にて臓器提供意思表示カード入りポケットティッシュを配布し、臓器提供啓発活動を実施しました。室蘭市と登別市には同ポケットティッシュ各350個を提供し、市民への臓器移植普及推進月間の周知と臓器提供意思表示の推進をお願いしました。



石川

石川県腎友会では、腎臓移植推進のための啓発活動の一環として平成11年から「命のキャラバン」と称し、毎年9月から11月にかけて救命救急医や脳神経外科医の先生方との意見交換のため県内の病院を巡回訪問しています。昨年は7月18日に病院訪問の出発式が行われ、石川県知事からの激励メッセージが健康福祉部長より手渡されました（左下写真）。このキャラバンを通じて、腎移植を受けた会員からは移植後の生活について、「生活の質が格段に上がった」という声や、医師・看護師との意見交換では今後の運動の参考になる話を聞くことができました。石川県腎友会では、今後も会の総力をあげてこの運動に取り組み、移植推進につなげたいとしています。



東京

10月6日、井の頭恩賜公園にて、第42回臓器移植普及推進キャンペーンを実施しました。当日は曇り空のなか、東京腎臓病協議会会員、東京医科大学八王子医療センター腎臓病センターの先生、医療スタッフ総勢32人が集まり、参加者全員でブースの設営や風船作り、ノベルティの配布準備をして、道行く人にこのキャンペーンについて呼びかけました。臓器提供意思表示カード入りポケットティッシュを約3,000個、風船を650個配布しましたが、移植について熱心に質問する人もおられ、今後も臓器提供が普及することを願って、引き続き啓蒙活動を実施する予定です。

